

# パリ東京文化タンデム2018

報告書



**全体概要**

パリ東京文化タンDEM2018について P2

プログラム一覧 / 主催者 P3

**東京実施事業**

ショーケース『間 エチュード — MA étude』 P4

展覧会『エキゾテック×モダン アール・デコと異境への眼差し』 P7

複合文化イベント『Saison Rouge ~Weekend in Paris-Tokyo』 P10

演劇公演『ガラスの動物園』 P13

ライブ・アート・パフォーマンス『ダーク・サーカス』 P16

現代工芸品展覧会『Création sous influence -響き合う創造-』 P18

大学生の東京・パリのポスターコンテスト P21

海外オーケストラ公演『パリ管弦楽団』 P24

**パリ実施事業**

展覧会『アール・ブリュット ジャポネ II』 P27

『FUROSHIKI PARIS』 P30

からくり人形の動態展示 P33

タンDEM記者発表 P36

パリ市主催の事業 P37

## ■ パリ東京文化タンデム 2018 について



2017年に小池百合子東京都知事とアンヌ・イダルゴパリ市長が発表・署名した共同コミュニケに基づき、東京都及びパリ市両都市間の文化交流の活性化に向け、パリ市、東京都、アンスティチュ・フランセが協力し、「パリ東京文化タンデム 2018」を実施しました。

パリ市は毎年、アンスティチュ・フランセと協力し、姉妹友好都市と数多くの共同企画を実施する文化交流事業を行ってきました。タンデム（連携）の目的は、両都市の市民に相手都市の文化シーンの活力を紹介することです。これまでにブエノスアイレス、ベルリン、ダカール、ローマ、ロンドン、ニューヨーク、マドリードとともに実施されています。

今回のタンデムのテーマは「現代の視点で伝統を再発見する」です。あらゆる表現による芸術を紹介するだけでなく、両都市の伝統と歴史文化を際立たせるものになっています。

東京で秋に開催されたタンデムのプログラムは、2018年9月から2019年1月まで東京芸術劇場でのパフォーマンスを皮切りに、アール・デコの展覧会、週末のパリの街角の気分を味わえる音楽やダンスのイベント等、開催しました。一方のパリでは、2018年2月から4月まで、パリ市立文化施設においてデジタルアートのフェスティバルと連携した日仏のアーティストが共演するプログラムや漫画家浦沢直樹氏の展覧会などが実施されるとともに、2018年11月には「FUROSHIKI PARIS」などのイベントが開催されました。パリで秋に開催されたイベントは、日本とフランスの外交樹立160周年を記念する事業「ジャポニスム2018」の特別企画として実施されています。

本報告書ではこれらタンデムのプログラムのうち、東京都が実施した事業についてまとめました。

パリ東京文化タンデム2018 プログラム一覧

実施日程		会場	プログラム名
2018年9月28日(金) ~2018年9月30日(日)	東京	東京芸術劇場	ショーケース公演 『間 エチュード — MA étude』
2018年10月6日(土) ~2019年1月14日(月・祝)	東京	東京都庭園美術館	展覧会 『エキゾティック×モダン アール・デコと異境への眼差し』
2018年10月17日(水) ~2018年10月21日(日)	東京	渋谷・代官山など	複合文化イベント 『Saison Rouge ~Weekend in Paris-Tokyo』
2018年10月27日(土) ~2018年10月28日(日)	東京	東京芸術劇場	演劇公演『ガラスの動物園』
2018年10月27日(土) ~2018年10月29日(月)	東京	東京芸術劇場	ライブ・アート・パフォーマンス『ダーク・サーカス』
2018年11月11日(日) ~2018年11月26日(月)	東京	東京都美術館	現代工芸品展覧会 『Création sous influence -響き合う創造-』
2018年11月9日(金) ~2018年12月16日(日)	東京	新宿駅西口	大学生の東京・パリのポスターコンテスト
2018年12月16日(日)	東京	東京芸術劇場	海外オーケストラ公演『パリ管弦楽団』
2018年9月8日(土) ~2019年3月10日(日)	パリ	アル・サン・ピエール 美術館	展覧会『アール・ブリュット ジャポネⅡ』
2018年11月1日(木) ~2018年11月6日(火)	パリ	パリ市庁舎前広場	『FUROSHIKI PARIS』
2018年11月2日(金) ~2018年11月3日(土)	パリ	パリ日本文化会館	からくり人形の動態展示

※パリ市主催事業を除く

パリ東京文化タンデム2018 主催者

■東京都

■パリ市

■アンスティチュ・フランセ



### <開催概要>

フランス現代サーカスの鬼才、カミーユ・ボワテル氏の最新作『間 エチュード — MA étude』の制作過程が垣間見えるショーケース公演を開催しました。また本公演に合わせて、日仏国際共同制作で2019年に完成予定の同作の公開リハーサルや一部試演、レクチャーなどを行いました。

ボワテル氏は、類まれな身体能力を活かしたパフォーマンスやビジュアル表現によって、これまでのサーカスにまつわる既成概念を覆してきました。今回ボワテル氏が構想する新作『間 エチュード — MA étude』とは、さまざまな舞台装置や照明を駆使し、重力や陰影によって隔てられ、“叶わぬ愛”を余儀なくされる恋人たちの関係をドラマティックに描こうというものです。

日本人のクリエイターとして、ボワテル氏が「本能的な感覚を持つ」と評する日本の伝統楽器・笙の奏者、井原季子氏が参加し、舞台に柔軟で即興的な要素を加えました。異色のコラボレーションによって、どこにも見たことがないような世界が創り上げられました。

同公演は東京芸術祭の一環として行われ、東京芸術劇場とボワテル氏が率いるカンパニー・リメディアが共同制作しました。

構成・演出：カミーユ・ボワテル、セヴ・ベルナル

出演：カミーユ・ボワテル、セヴ・ベルナル、井原季子、青木淳

<b>名 称</b>	ショーケース『間 エチュード — MA étude』
<b>開 催 日</b>	2018年9月28日(金) 19:00開演 9月29日(土) 15:00開演 9月30日(日) 15:00開演
<b>主 催</b>	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場・アーツカウンシル東京

### 会場

#### 東京芸術劇場 シアターイースト

住所：〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1

URL: <http://www.geigeki.jp/>



## ショーケース『間 エチュード — MA étude』

### <事業の詳細>

#### 『間 エチュード — MA étude』

無声映画のようなドタバタコメディのシーンがあるかと思えば、不思議な衣装に身を包んだ2人が能のような動きできらめく照明の中で距離をつめていきます。また、一転してリアルな家具に囲まれたセットで演じられる男女の愛をめぐる不毛な諍いも起こります。演劇でもなくダンスでもなくまた従来の現代サーカスの枠をもはみ出した異才カミーユ・ボワテルならではのマジカルなパフォーマンス！カミーユ本人がマイクを握ってシーンの裏側を客席に向かって解説していく試みも従来にないもので、まさにフランス流エスプリ溢れる「エチュード」が展開されました。



#### 入場者数

3公演 合計 409名



# ショーケース『間 エチュード — MA étude』





### <開催概要>

フランスで生まれたアール・デコの美意識と造形は、非ヨーロッパ圏の文化・美術との出会いから、大きな影響を受けました。ツタンカーメン王墓の発見やロシア・バレエとジョセフィン・ベイカーの登場、自動車メーカーのシトロエンが行ったアフリカ縦断プロジェクト「クロワジエール・ノワール」、アジア横断プロジェクト「クロワジエール・ジョーヌ」、そして1931年開催のパリ国際植民地博覧会など、様々な出来事が2つの大戦の間のパリを賑わせました。

この時代に美術家/デザイナーたちは、遠い地の色彩、素材、技法の影響からどのように新しい表現を生み出したのでしょうか。そんなことを感じさせる内容の本展では、色彩豊かな服飾とジュエリー、さまざまな装飾美術、そしてアフリカやアジアに触発されたダイナミックな絵画に彫刻と、30年代美術館、装飾美術館、モビリエ・ナショナルなど、フランスの美術館所蔵の国内初公開の作品を中心に96点を紹介しました。

会期中に同展覧会の日仏の研究者らによる講演会などの関連イベントも開催しました。

<b>名 称</b>	展覧会『エキゾティック×モダン アール・デコと異境への眼差し』
<b>開 催 日</b>	2018年10月6日(土) - 2019年1月14日(月・祝)
<b>主 催</b>	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館、 読売新聞社、美術館連絡協議会

## 会場

### 東京都庭園美術館

住所: 〒108-0071 東京都港区白金台5丁目21-9

URL: <https://www.teien-art-museum.ne.jp/>



# 展覧会『エキゾティック×モダン アール・デコと異境への眼差し』

## <事業の詳細>

### 展覧会

本館と新館を使って96点のアール・デコ時代の作品を展示したほか、モロッコ生まれで、パリで活動する現代美術家ムニール・ファトゥミによる本展のための新作映像作品を上映しました。



### 関連プログラム

ポルドー第3大学教授ドミニク・ジャラセ氏の講演会「アール・デコ、植民地美術 そして異境へのまなざし」を含む、会期中に3回のイベントを実施しました（参加者数 計250名）。



### 入場者数

86日 44,907名

## 展覧会『エキゾティック×モダン アール・デコと異境への眼差し』



本館（旧朝香宮邸）における展示



新館での展示



ムニール・ファトゥミ《ヒューマン・ファクター》2018年

### <開催概要>

東京都、パリ市、アンスティチュ・フランセによる「パリ東京文化タンDEM2018」事業の一環として、「Saison Rouge~Weekend in Paris-Tokyo」が初開催されました。代官山・渋谷エリアを中心に、音楽、ストリートダンス、映画などの多彩なイベントが5日間にわたって開催され、文化や芸術に関心の高い若者を中心とする多くの市民が参加しました。「Saison Rouge」は、ダイバーシティ（多様性）とサステナビリティ（持続可能性）という2つのコンセプトを中心に展開し、ジャンルの垣根を越え、アーティストや観客、そしてアートイベントが、互いにインスパイアし合うようなプログラムを目指し、多様な生き方や価値観が共存する国際都市パリの姿を、参加者に感じていただけるよう工夫しました。環境に配慮しながらイベントを満喫できるように、エコキャンペーンなども同時に実施しました。パリの最先端のカルチャーの第一線で活躍する、パリを体現するにふさわしいアーティストが来日するなど（エリゼ宮の音楽イベントの主演アーティスト2名を含む）、充実したプログラムによって日本の観客からの熱い期待に応えるラインナップを実現しました。

<b>名 称</b>	複合文化イベント『Saison Rouge ~Weekend in Paris-Tokyo』
<b>開催日</b>	2018年10月17日（水）-10月21日（日）
<b>主 催</b>	在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本、株式会社エフ・イー・ユー、株式会社ランブリング・レコーズ

### プログラム及び会場

日程	プログラム名	会場
2018年10月17日	Saison Rouge レセプションパーティー	渋谷トランクホテル
2018年10月17日	『バルバラ セーヌの黒いバラ』プレミア上映会	アンスティチュ・フランセ東京
2018年10月18日	SAISON ROUGE -DANCE- « Master Cypher » (企画：Hawks Method / La Place) @BX CAFÉ	BX CAFE
2018年10月19日	SAISON ROUGE -LIVE- @WWW	渋谷WWW
2018年10月19日	SAISON ROUGE -CLUB- @CONTACT (LGBT NIGHT)	Contact Tokyo
2018年10月20日	ストリートダンス スペシャル・ワークショップ Hawks Method	アンスティチュ・フランセ東京
2018年10月20日	SAISON ROUGE Presents Roche Musique Night @VISION	Sound Museum Vision
2018年10月20日	SAISON ROUGE Presents A6:. Night @UNIT	UNIT代官山
2018年10月21日	『気狂いピエロ』上映会、『アンナ・カレーナ、君はおぼえているかい』上映会	アンスティチュ・フランセ東京



# 複合文化イベント『Saison Rouge ~Weekend in Paris-Tokyo』

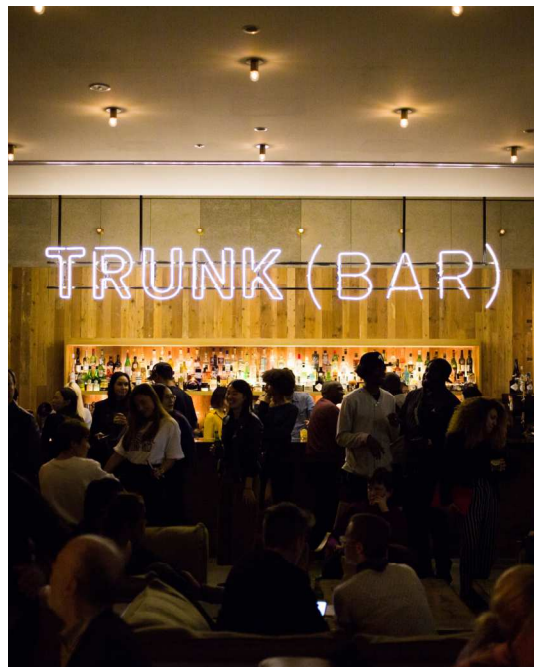
## <事業の詳細>

### ■ オープニングプレミア上映

『バルバラ セーヌの黒いバラ』  
ジャンヌ・バリバールを迎えて



### ■ オープニングパーティー@Trunk Hotel



■ Master Cypher produced by  
Hawks Method / La Place@BXCAFE



### ■ 入場者数

9プログラム、合計2,361名

# 複合文化イベント『Saison Rouge ~Weekend in Paris-Tokyo』

---





### <開催概要>

ダニエル・ジャンヌトー氏がテネシー・ウィリアムズ（1911-1983）の作品を見いだしたのは、宮城聡氏が2011年に日本でSPAC-静岡県舞台芸術センターの俳優と作品をつくるという提案をしたときでした。それまでは「好みではない」と思っていたのですが、演出家ジャンヌトーは「自由と思いがけない夢の場」を開いてくれる『ガラスの動物園』がもつすばらしい豊かさに気づかされたといいます。

5年後、ダニエル・ジャンヌトーはこのフランス語版を製作し、ソレーヌ・アルベル（ローラ）、カントゥン・ブイッサー（ジム）、オリヴィエ・ヴェルネル（トム）、そしてアマンダ役のドミニク・レイモンが深く輝かしい演技を見せました。『ガラスの動物園』はテネシー・ウィリアムズがいうように「思い出の戯曲」であり、トムは語り手であると同時に、自分が語る物語の登場人物ともなっています。この戯曲は作者の人生に靈感を得ており、精神疾患を病んでいた妹への無限の愛を物語っており、20世紀アメリカ演劇の傑作です。

作：テネシー・ウィリアムズ 仏語翻訳：イザベル・ファンション

演出・舞台美術：ダニエル・ジャンヌトー

上演時間：2 時間 15 分

出演：ソレーヌ・アルベル、ピエリック・プラティエール、ドミニク・レイモン、オリヴィエ・ヴェルネル、ジョナタン・ジュネ（ビデオ出演）

<b>名 称</b>	演劇公演『ガラスの動物園』
	2018 年 10 月 27 日（土）-10 月 28 日（日） 各日15:30開演
<b>主 催</b>	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場・アーツカウンシル 東京

### 会場

#### 東京芸術劇場 プレイハウス

住所：〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1

URL: <http://www.geigeki.jp/>



## 演劇公演『ガラスの動物園』

### <事業の詳細>

#### 『ガラスの動物園』

クロード・レジの舞台美術を約15年間務めたジャンヌトーらしく、舞台上には薄いベールで区切られた中と外の世界に分けられ、回想などの場面が幻想的に繰り広げられました。

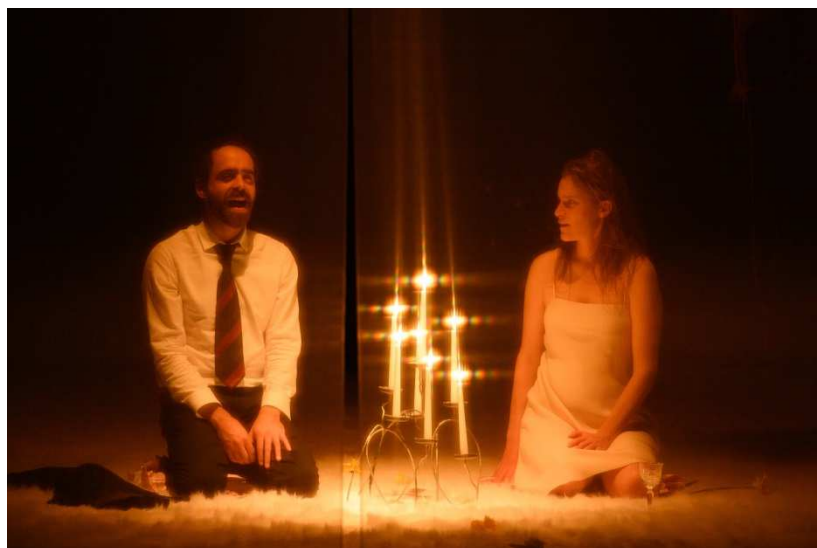


全画像©松本和幸

#### 入場者数

2公演、合計1,262名

# 演劇公演『ガラスの動物園』



全画像©松本和幸

### <開催概要>

「いらっしゃい、いらっしゃい、不幸になりいらっしゃい！」

本作はこの奇妙なスローガンで幕をあける、音とイメージのライブパフォーマンスです。ロマン・ベルモン氏とジャン＝バティスト・マイエ氏の2人によって、リアルタイムに描かれるイメージと生演奏される音楽が大スクリーンに繰り広げられ、いわば“フィルムのない映画”ともいえる作品となりました。彼らは、予め動画を編集するなど、テクノロジーは使用せずに、フェルトペンや木炭、絵の具、インク、白墨、砂等々といった材料を使い、観客の目の前でイメージをつくりだしました。

本作は、絵本作家ペフによる書き下ろし作品を出発点として生まれました。観客は、イメージと音楽が次々と展開されるスクリーンを通して、すばらしいサーカスと出会えました。アヴィニオン演劇祭であらゆる年齢層の観客を魅了した、詩情あふれるアート・パフォーマンスでした。

作・出演：ロマン・ベルモン、ジャン＝バティスト・マイエ、(ステレオプティック) 原作：ペフ  
上演時間：55分

<b>名 称</b>	ライブ・アート・パフォーマンス『ダーク・サーカス』
<b>開 催 日</b>	2018年10月27日(土) 13:30開演 10月28日(日) 13:30開演、18:30開演 10月29日(月) 16:00開演
<b>主 催</b>	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場・アーツカウンシル 東京

### 会場

#### 東京芸術劇場 シアターウエスト

住所：〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1

URL: <http://www.geigeki.jp/>



# ライブ・アート・パフォーマンス『ダーク・サーカス』

## <事業の詳細>

### 『ダーク・サーカス』

1人のアーティストはフェルトペンや木炭、砂絵、影絵など、さまざまな素材を使って、その場で描いた作品をOHPプロジェクタを通して、スクリーンに投影し、ダークなサーカス集団を見事に描いていきました。もう1人のアーティストは、ギターやキーボードなど複数の楽器を持ち出してループマシーンで音を重ねていき、ライブ演奏をしていました。シンプルな仕掛けから思いがけない演出を施す2人に、観客も感激しながら作品にのめり込んでいる様子でした。

### 入場者数

4公演 合計 419名



©JM BESEVAL